

2014.3.18

浦山純子 ピアノ・リサイタルシリーズ

「ショパン&ラフマニノフの世界」 Vol.1 〈飛翔〉

《開催概要》

スタインウェイ・アーティストの浦山純子氏による新たなピアノ・リサイタルシリーズ「ショパン&ラフマニノフの世界」の第1回公演を、2014年6月15日(日)浜離宮朝日ホールにて開催いたします。

国内外で多彩な演奏活動が続けてきたピアニスト・浦山純子氏の新たな挑戦として、ショパンとラフマニノフという2人の作曲家に焦点を当てた、3年間・全4回の意欲的なリサイタル・シリーズがスタートします。ショパンとラフマニノフの作品は、浦山氏の代名詞ともいえるもの。ショパンとは、ポーランド国立ワルシャワショパン音楽院にて長く学び、ラジヴィーウ国際ピアノコンクール(ポーランド)では優勝及び最優秀ショパン賞を受賞したほか、その作品群が浦山氏の演奏家人生に変わることなく寄り添い、励みになってきたという深い関係を持ちます。一方ラフマニノフとは、彼の大親友でピアニストのゴリデンヴェィゼル(ラフマニノフは彼に「ピアノ組曲第2番」を献呈、共にリスト直系ジロティに学ぶ)の孫弟子として、ロシアピアノズムに大きな影響を受けて研鑽を積んできた経緯があります。どちらの作曲家も、そのロマンチックで情熱的な作品が浦山氏の豊かな感受性や幅広い表現力と結びついて、浦山氏の演奏活動において常に重要なレパートリーであり続けています。

今回は、実は結びつけて語られることの少ないその2人の作曲家を「望郷の思い」というキーワードから焦点を当て、その人生を追うかたちで全4回のリサイタル・シリーズを構成しました。どちらの作曲家も若くして才能を開花させ、故郷を出て異国の地で創作に励みますが、のちに戦争や病いに阻まれ、望郷の思いを強く持ちながらも叶わず、その郷愁を作品に書き残して亡くなっていきました。自身も若くして留学し長く海外で生活してきただけでなく、震災によって生まれ故郷の福島県郡山市、また育った地である宮城県仙台市の変り果てた景色を目の当たりにした経験から、特に「郷愁」という感情に強い共感を持つ浦山氏は、その思いをキーワードに据え、自身のピアニスト人生のひとつの包括とすべく、本シリーズを企画しました。シリーズは青年期の〈飛翔〉、壮年期の〈憧憬〉、円熟期の〈豊穡〉、晩年の〈郷愁〉と、全4回にわたって2人の作曲家の人生を追いかけます。

第1回の今回は、2人の作曲家がまだそれぞれの生まれた地—ショパンはポーランド、ラフマニノフはロシア—にあって、若くしてその作曲家としての頭角を表し始めた、青年期の名作に焦点を当てます。ぜひご注目いただけますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

公演特設ページ <http://www.1002.co.jp/junkourayama/recital/>

名 称	浦山純子 ピアノ・リサイタルシリーズ 「ショパン&ラフマニノフの世界」 Vol.1 〈飛翔〉
日 時	2014年6月15日(日) 14:00 開演 / 13:30 開場
会 場	浜離宮朝日ホール
協 力	スタインウェイ・ジャパン株式会社

本公演についてのお問い合わせ

〒102-0083

東京都千代田区麹町 1-3-7 日月館麹町ビル 3F

株式会社 1002 公演担当=首藤 真帆[シウトウ マホ]

TEL 03-3264-0244 / FAX 03-3264-1788

MAIL shutou@1002.co.jp

《公演概要》

プログラム

ショパン／ロンド ハ短調 Op.1

ラフマニノフ／幻想的小品集 Op.3 より 2.前奏曲「鐘」 4.道化師 5.セレナーデ

楽興の時 Op.16 より 2.変ホ短調 4.ホ短調

ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op.11 (室内楽版)

共演:N響メンバーによる弦楽四重奏団

山岸努、横溝耕一(ヴァイオリン) 飛澤浩人(ヴィオラ) 山内俊輔(チェロ)

出演者

浦山純子【ピアノ】 Junko Urayama, Piano

桐朋学園大学卒業後、1994年ポーランド国立ワルシャワショパン音楽院に留学。95年ラジヴィエウ国際ピアノコンクール優勝、及び最優秀ショパン賞(ポーランド)、98年ポリーノ国際ピアノコンクール最高位(イタリア)を始め受賞多数。96年よりロンドンを拠点とし、名門ウィグモアホールにてデビュー。ウラディミール・アシュケナージ指揮フィルハーモニア管弦楽団とのグリーグ:ピアノ協奏曲共演ほか、ヨーロッパ各国でソロリサイタル、コンチェルトから室内楽に至るまで幅広く活動。2005年に帰国、多彩な企画で演奏活動を展開し、スタインウェイ・ジャパン(株)の“Young Virtuoso Series”のアーティストとして全国各地でコンサートを行ったほか、国内外で教育・福祉関係のためのチャリティ活動にも力を入れている。また09年よりスタートさせたリサイタル・シリーズ「心の旅への誘(いざな)い」は、「奥の細道」から着想された『芭蕉の奥の細道による気紛れなパラフレーズ』を取り上げ、12年には本作品の全曲録音CDとして〈VOYAGE ヴォヤージュ〉をソニー・ミュージックダイレクトより発売、文化庁芸術祭に選出される。CDはこれまでに、03年〈Piano Recital ピアノリサイタル〉05年〈Fantasie ファンタジー〉07年〈Soiree ソワレ〉(いずれもイギリス・シンフォニカレコード)をリリース。14年6月には5枚目のCD〈Concertos コンチェルト〉(ショパン:ピアノ協奏曲第1番&ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番)をリリース予定。スタインウェイ・アーティスト。

浦山純子オフィシャルWEBサイト <http://www.junkourayama.com/>

共演:N響メンバーによる弦楽四重奏団

山岸努 Tsutomu Yamagishi, Violin

桐朋学園大学卒業後、2009年NHK交響楽団入団。第51回、第54回全日本学生音楽コンクールでそれぞれ第2位入賞。第12回日本モーツァルト音楽コンクール第1位、大賞選考会においても大賞受賞。現在はN響メンバーを中心とした各種室内楽や、ソロコンサートでも活躍中。これまでに、佐藤明美、辰巳明子、堀正文の各氏に師事。

横溝耕一 Koichi Yokomizo, Violin

桐朋学園大学卒業。ウェールズ弦楽四重奏団のヴィオラ奏者として第57回ミュンヘン国際コンクール第3位入賞。これまで宮崎国際音楽祭やサイトウ・キネン・フェスティバル松本等の音楽祭に参加。2009年よりNHK交響楽団団員。

飛澤浩人 Hiroto Tobisawa, Viola

桐朋学園大学卒業。1992年第4回モーリス・ヴュー国際ヴィオラ・コンクール第2位。エコー・ノルマル音楽院にてコンサート・ディプロムを満場一致で取得。フランス国立ロワール管弦楽団で第2ソリストを務める。ヴァイオリンを故・久保田良作、景山誠治、故・江藤俊哉、ヴィオラを店村眞積、G.コセの各氏に師事。2006年NHK交響楽団入団、08年よりヴィオラ次席奏者。

山内俊輔 Shunsuke Yamanouchi, Cello

桐朋学園大学卒業。チェロを故・徳永兼一郎、室内楽を徳永二男、山口裕之、毛利伯郎、練木繁夫、I.オイストラフの各氏に師事。また D.シャフラン、M.シユトラウス各氏のマスタークラスを受講。1994年 NHK 交響楽団入団。99年文化庁在外研修員として渡欧、ミュンヘン音楽大学教授 W.ノータス氏に師事。オーケストラを中心に、室内楽等で活躍。

料 金

¥4,000(全席指定・消費税込)

プレイガイド

チケットぴあ:<http://pia.jp/t/> 0570-02-9999 [Pコード:225-706]

東京文化会館チケットサービス:03-5685-0650 (オペレーター対応)

プロデュース

株式会社 1002[イチマルマルニ]

お問い合わせ

株式会社 1002 03-3264-0244 <http://www.1002.co.jp/>

※都合により、出演者・プログラムが変更になる場合がございます。

※未就学児のご入場はご遠慮ください。